

配電総合設備計画システムについて

情報システム部
配電部

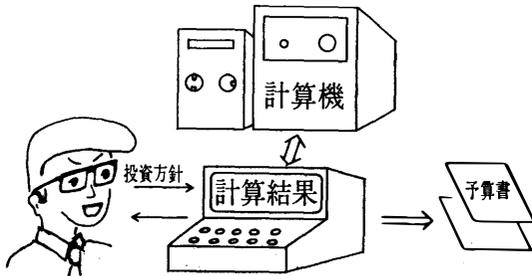
1 あとがき

従来配電予算策定（予算見直しも含む）、期末における予算推定は人手による長時間作業に委ねられていた。しかし投資方針の多面的検討や急変する外部環境への対応の必要性から短期間で迅速かつ正確な策定が要求されていた。これに答えるためこれら一連の作業をコンピュータシステムとして開発したのでここにその概要を紹介する。

2 システムの特徴

(1)マン・マシンシステム

端末機を使用してコンピュータと対話型式で政策や目標に合致した予算をトライアンドエラー方式で編成する。

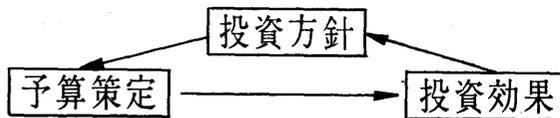


(2)事務計算で蓄積した実績データの有効利用

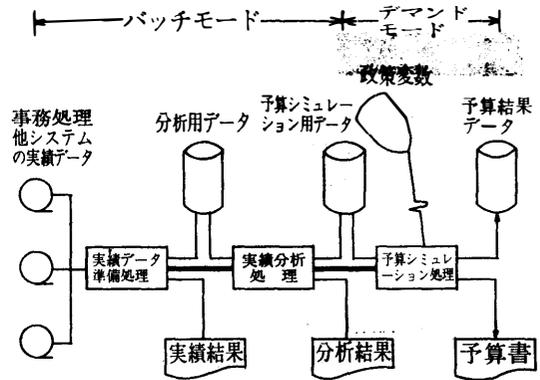
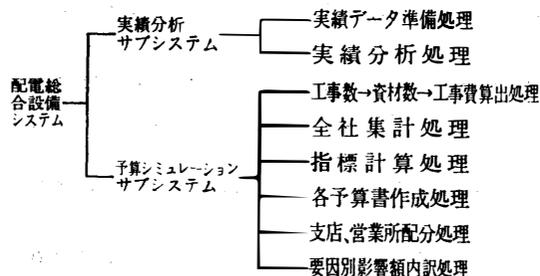
配電経一貫運用システム及び低圧配電線管理システムで蓄積した実績データを抽出分析し予算策定用の理論式、経験式により各種の係数を算出して活用する。

(3)トライアングル方式

投資方針を基に予算策定を行ないその投資効果を指標（例えば供給信頼度）として即時把握し投資方針の正当性をチェックする。



3 システムの構成



4 システムの規模

処 理 名	開発ステップ数		標準処理時間(SUP)
	コボル	フォートラン	
実績データ準備処理	500	2,700	40分
実績分析処理		10,000	45分
予算シミュレーション処理		12,500	※7分
合 計	500	25,200	

(注)：※1ケース当り

5 システムのメリット

(1)予算書作成のための単純集計作業，作表作業が省力化されるとともに集計精度の向上がはかられた。

(2)投資効果（指標）が即時把握され予算策定への有効活用がはかられる。

(3)情勢変化に対する即応性の向上により急変する時代の要請に対応出来る。

(4)全社統一の作成ロジックのため算出根拠が明確となり，論理的予算配分が可能となる。

6 あとがき

当システムを利用し，55年度予算策定，期末推定作業が実施され，大巾な時間短縮と業務の質的向上がはかられた訳であるが，このようなシステムは時代の変化により，機能追加，修正の必要性が生ずるので，今後ともシステムの改善を重ね，より充実したシステムとする努力を払っていくとともに，他部署への適用の可能性も含めて一層の検討を行なっていきたい。

(管理G・技術システムG)